

(仮称) 印西クリーンセンター次期中間処理施設整備運営事業

審査講評

令和5年12月27日

印西地区環境整備事業組合
印西クリーンセンター次期中間処理施設
整備運営事業者選定委員会

目 次

| | |
|-------------------------------|----|
| 第1章 事業の概要..... | 1 |
| 1. 事業名称..... | 1 |
| 2. 本事業の対象となる公共施設等の名称及び種類..... | 1 |
| 3. 事業目的..... | 1 |
| 4. 施設概要..... | 1 |
| 5. 事業方式..... | 2 |
| 6. 事業期間..... | 2 |
| 7. 事業者の業務範囲..... | 2 |
| 第2章 事業者の選定方法等..... | 3 |
| 1. 事業者の募集及び選定方法..... | 3 |
| 2. 落札者決定の手順..... | 3 |
| 3. 事業者選定の経過..... | 5 |
| 4. 選定委員会の設置..... | 6 |
| 5. 選定委員会の開催経過..... | 6 |
| 第3章 事業者の選定結果..... | 8 |
| 1. 入札参加資格審査..... | 8 |
| 2. 事業提案審査..... | 8 |
| 第4章 総評..... | 13 |

第1章 事業の概要

1. 事業名称

(仮称) 印西クリーンセンター次期中間処理施設整備運営事業 (以下、「本事業」という。)

2. 本事業の対象となる公共施設等の名称及び種類

名称： エネルギー回収型廃棄物処理施設
マテリアルリサイクル推進施設
種類： 一般廃棄物中間処理施設

3. 事業目的

本事業は、「次期中間処理施設整備事業 施設整備基本計画」(平成28年4月)に示す以下の基本方針を実現するため、一般廃棄物の適正な処理とともに地域環境との調和や資源循環型社会への貢献等を視野に入れた事業計画とし、地球温暖化防止対策に努め、将来的なカーボンニュートラル・地球環境の保全を目指す、エネルギー回収型廃棄物処理施設及びマテリアルリサイクル推進施設(以下、「本施設」という。)を整備し、適切な運営を行うことを目的とする。

- ・地域住民等の理解と協力を確保する安全・安心な施設整備
- ・循環型社会形成と地域活性化の拠点となる施設整備
- ・経済性と高度なシステムの両立を目指した施設整備

4. 施設概要

本施設の概要を表1に示す。

表1 本施設の概要

| 項目 | 概要 |
|---------------------|---|
| エネルギー回収型 廃棄物処理施設 | 焼却処理方式：全連続式燃焼ストーカ式焼却方式 処理能力：156t/日 (78t/日×2炉) 燃焼ガス冷却方式：循環式廃熱ボイラ方式 エネルギー回収率：17.5%以上 |
| マテリアルリサイクル 推進施設 | 処理能力：10t/日 |

5. 事業方式

本事業はDBO方式により実施する。

本施設の設計・建設業務は、建設工事請負事業者が行うものとする。また、本施設の運営維持管理業務は、事業者が設立した特別目的会社が行うものとする。

なお、事業者は35年間以上の施設使用を前提として設計・施工及び運営を行うこととする。

本施設の設計・建設業務については、循環型社会形成推進交付金等の対象事業として実施する予定である。

6. 事業期間

事業期間は次のとおりとする。

- (1) 設計・建設期間 : 特定事業契約締結日から令和10年3月31日まで
(令和10年4月1日供用開始予定)
- (2) 運営維持管理期間 : 令和10年4月1日から令和30年3月31日まで
(20年間)

7. 事業者の業務範囲

事業者が実施する主な業務は次のとおりとする(詳細は、入札説明書のとおり)。

- (1) 設計・建設業務
- (2) 運営維持管理業務

第2章 事業者の選定方法等

1. 事業者の募集及び選定方法

事務局は本事業への参加を表明する事業者を広く公募した。選定は、公平性・透明性を確保するため、総合評価一般競争入札方式により行われた。

2. 落札者決定の手順

落札者決定の主な手順は、次のとおりとし、その流れを図1に示す。

(1) 入札参加資格審査

参加者から提出された入札参加資格審査に関する提出書類を基に、入札説明書の「参加資格」に示した事項を満たしているかどうかの確認が事務局により行われ、参加資格を満たしていることが確認された参加者に対し、入札参加資格を有することを書面にて通知された。

(2) 事業提案審査

1) 基礎審査

事業提案書に記載された内容が落札者決定基準に示す基礎審査項目をすべて満たしているか、事務局により確認が行われ、印西地区環境整備事業組合印西クリーンセンター次期中間処理施設整備運営事業者選定委員会（以下、「選定委員会」という。）に審査合格の報告がなされた。

2) 非価格要素審査

選定委員会により、参加者から提出された事業提案書のヒアリングを実施し、評価、得点化が行われた。

3) 価格審査

事務局により入札価格の得点化が行われ、結果が選定委員会に報告された。

4) 総合評価

選定委員会は、非価格要素審査と価格審査の得点を合計し、総合評価点の最も高い入札参加者を最優秀提案者として選定した。

(3) 落札者の決定

選定委員会における評価・審査の結果に基づいて、印西地区環境整備事業組合（以下、「組合」）が落札者を決定した。

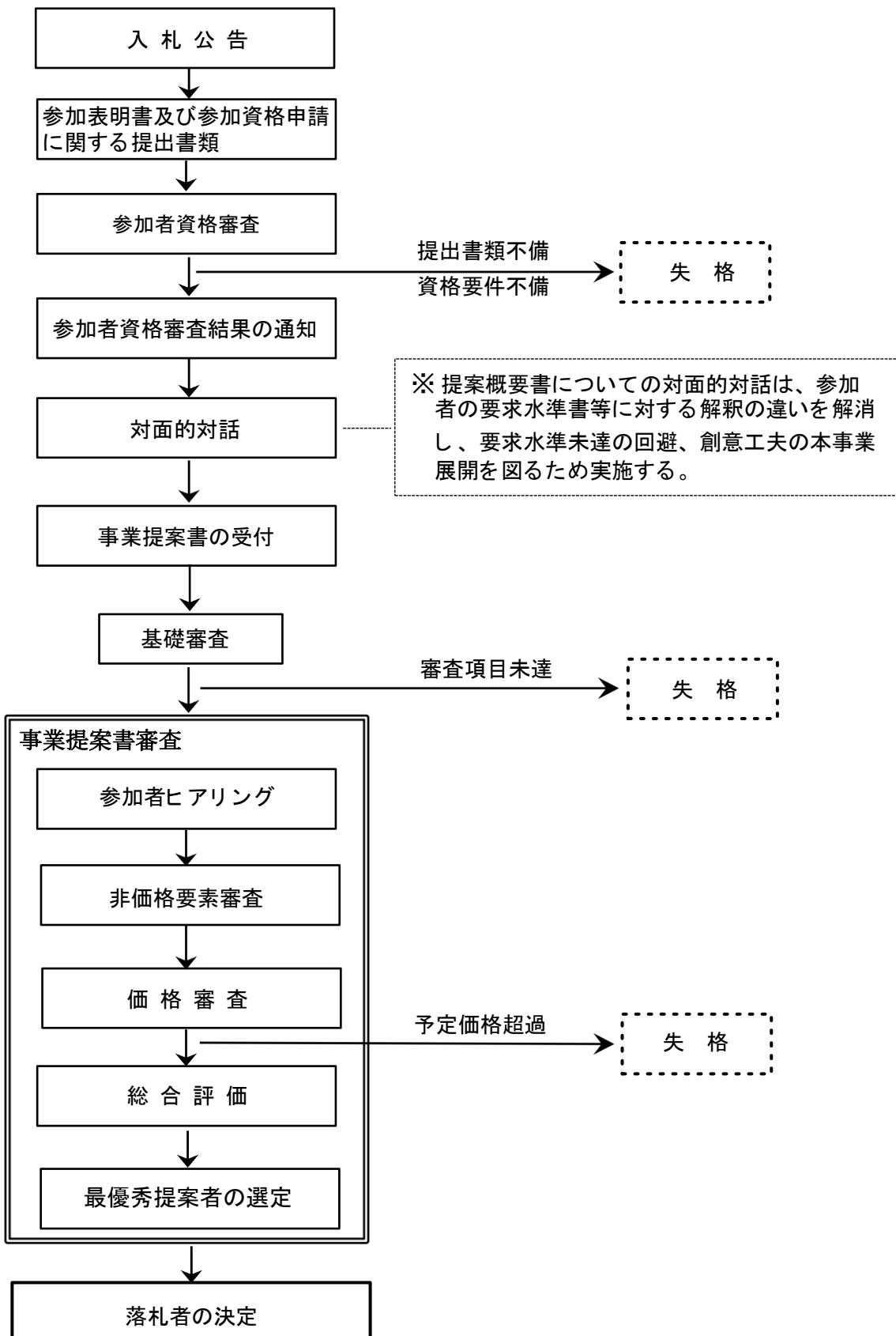


図1 落札者決定の手順

3. 事業者選定の経過

事業者の選定は、表2に示すスケジュールのとおり実施した。

表2 事業者の選定スケジュール

| 日程 | 内 容 |
|------------------------------|---------------------------------|
| 令和5年3月3日(金) | 実施方針の公表 |
| 令和5年3月3日(金) ～令和5年3月17日(金) | 実施方針に対する質問・意見の受付 |
| 令和5年3月27日(月) | 実施方針質問に対する回答 |
| 令和5年3月27日(月) | 実施方針質問に対する回答を踏まえた実施方針の修正の公表 |
| 令和5年4月3日(月) | 特定事業の選定・公表 |
| 令和5年4月10日(月) | 入札公告及び募集要項公表・配布 |
| 令和5年4月24日(月) | 参加者審査に関する質問の受付締切 |
| 令和5年5月1日(月) | 参加者審査に関する質問・意見への回答公表(第1回) |
| 令和5年5月1日(月) | 参加者審査に関する質問への回答を踏まえた様式2-4の修正の公表 |
| 令和5年6月6日(火) | 参加者審査に関する質問・意見への回答公表(第2回) |
| 令和5年6月9日(金) | 参加表明書及び参加資格申請書類の締切 |
| 令和5年6月16日(金) | 参加資格審査結果の通知 |
| 令和5年6月16日(金) | 募集要項に関する質問・意見への回答公表(第1回) |
| 令和5年6月23日(金) | 参加者審査に関する質問・意見への回答公表(第3回) |
| 令和5年6月30日(金) | 募集要項に関する質問締切 |
| 令和5年7月11日(火) | 募集要項に関する質問・意見への回答公表(第2回) |
| 令和5年7月31日(月) | 提案概要書の受付締切 |
| 令和5年8月21日(月) ・8月22日(火) | 概要ヒアリングの実施(対面的対話) |
| 令和5年8月25日(金) | 概要ヒアリング質問・意見に対する回答公表(第1回) |
| 令和5年9月20日(水) | 概要ヒアリング質問・意見に対する回答公表(第2回) |
| 令和5年9月20日(水) | 概要ヒアリングにて説明を求められた項目に対する回答書の公表 |
| 令和5年9月27日(水) | 事業提案書の受付締切 |
| 令和5年11月21日(火) | 事業提案書に関するヒアリング、審査、最優秀提案者の選定 |
| 令和5年12月26日(火) | 落札者の決定及び公表 |

4. 選定委員会の設置

組合は本事業の実施にあたり、整備及び運営に係る事業者を公正かつ公平に選定するため、選定委員会を設置し、次に示す全5項目について選定委員会に諮問した。なお、選定委員会の委員は表3に示すとおりである。

- (1) 事業者の募集、選定等に係る実施方針に関すること。
- (2) 事業者の実施方法の選定に関すること。
- (3) 事業者の募集方法、事業の要求水準書及び事業者の選定基準に関すること。
- (4) 事業者及び事業提案者の審査に関すること。
- (5) その他事業の推進に関し、必要な事項に関すること。

表3 選定委員会の委員

| 役職 | 氏名 | 所属 | 選出区分 |
|------|-------|---|-------------|
| 委員長 | 大迫 政浩 | 国立研究開発法人 国立環境研究所 資源循環領域 領域長 | 学識経験を有する者 |
| 副委員長 | 藤原 周史 | (一財)日本環境衛生センター 東日本支局 環境事業本部 環境事業第一部 部長 | |
| 委員 | 水谷 俊博 | 武蔵野大学 工学部 建築デザイン学科 教授 | |
| 委員 | 杉山 甚一 | 印西市副市長 | 管理者が必要と認める者 |
| 委員 | 山下 英之 | 白井市副市長 | |
| 委員 | 古川 正彦 | 栄町副町長 | |
| 委員 | 酢崎 義行 | 印西クリーンセンター次期中間処理施設の立地地区の住民 | |

5. 選定委員会の開催経過

選定委員会の開催状況は表4に示すとおりである。

表4 選定委員会の開催状況

| 時期 | | 主な議題 |
|-----|-----------------------------|---|
| 第1回 | 令和4年8月22日(月) | (1) 組織細則について (2) 運営細則(案)について (3) 会議傍聴遵守事項(案)について (4) 今後のスケジュール(案)について (5) 近年の施設整備状況について |
| 第2回 | 令和4年9月28日(水) | (1) 運営細則について (2) 実施方針(案)について (3) 特定事業の選定(案)について (4) 要求水準書(案)について (5) 今後のスケジュールについて |
| 第3回 | 令和4年11月21日(月) | (1) 実施方針(案)について (2) 特定事業の選定(案)について (3) 要求水準書(案)について (4) 落札者決定基準(案)について |
| 第4回 | 令和5年1月23日(月) | (1) 実施方針(案)について (2) 落札者決定基準(案)について (3) 入札公告(案)・入札説明書(案)について (4) 基本協定書(案)について (5) 基本契約書(案)について |
| 第5回 | 令和5年8月10日(木) | (1) 概要ヒアリング(対面的対話)実施要領(案)について (2) 提案概要書の概要について |
| 第6回 | 令和5年11月21日(火) | (1) 事業提案書審査(ヒアリング) (2) 最優秀提案者の選定について (3) 審査講評(案)について |
| 第7回 | 令和5年12月13日(水) ～12月26日(火) | (1) 審査講評(案)について |

第3章 事業者の選定結果

1. 入札参加資格審査

本事業の入札では、表5に示す2グループから入札参加資格審査申請書等の提出があった。

事務局は、入札参加資格の確認を行い、令和5年6月16日に代表企業に対して入札参加資格を有することを書面にて通知した。

なお、選定委員会による審査にあたっては、審査の公平を期すため、事業提案書等すべての書類において入札参加表明者の企業名を伏せ、表5に示す入札参加者名で識別して評価を行った。

表5 入札参加表明者

| | 赤グループ | 青グループ |
|------|---|---|
| 代表企業 | 株式会社神鋼環境ソリューション | JFEエンジニアリング株式会社 |
| 構成員 | 神鋼環境メンテナンス株式会社 | JFE環境サービス株式会社 |
| 協力企業 | 佐藤工業株式会社 千葉営業所 株式会社梓設計 株式会社クリーン工房 有限会社森田工業 | 株式会社奥村組 東関東支店 株式会社アジア開発興業 株式会社タイトウ 株式会社小幡工務店 |

2. 事業提案審査

(1) 基礎審査

令和5年9月27日を期限として、入札参加者2グループから事業提案書が提出された。

事務局は、提出された事業提案書について基礎審査を実施し、表6に示すとおり、赤グループ、青グループともに資格審査項目を満たしていることを確認した。また、事務局は審査結果を選定委員会の委員に報告した。

表6 基礎審査結果

| 資格審査項目 | 赤グループ | 青グループ |
|----------------------------|-------|-------|
| 1) 提出書類の整合確認 | | |
| ①必要な書類が揃い、書類間の整合が図られていること。 | 合格 | 合格 |
| ②入札参加者の資格要件を全て満たしていること。 | 合格 | 合格 |
| 2) 事業提案書の要求水準確認 | | |
| ①事業提案内容が要求水準を満たしていること。 | 合格 | 合格 |

(2) 非価格要素審査

令和5年11月21日の第6回選定委員会において、非価格要素提案書の審査を行った。

審査に際しては、事業提案書に関する入札参加者による説明（プレゼンテーション）及び委員による提案内容に対する質疑（ヒアリング）を実施し審査を行った。

審査結果は表7に、非価格要素の各審査項目についての講評は表8に示すとおりである。

表7 非価格要素審査結果

| 審査項目 | | 配点 | 赤グループ | 青グループ |
|------------------------------|--------------------------|-----|--------|--------|
| 1. 事業計画 | | 9 | 5.892 | 6.857 |
| | (1) 施工体制 | 3 | 1.714 | 2.035 |
| | (2) 運営維持管理体制 | 3 | 2.035 | 2.357 |
| | (3) リスク管理 | 3 | 2.142 | 2.464 |
| 2. 地域住民の理解と協力を確保する安全・安心な施設整備 | | 37 | 23.642 | 27.750 |
| | (1) 周辺環境と調和、配慮 | 10 | 5.357 | 7.500 |
| | (2) 安全・安心施設での長期・安定処理 | 10 | 7.500 | 7.142 |
| | (3) 地域貢献 | 10 | 6.785 | 7.857 |
| | (4) 災害対策 | 7 | 4.000 | 5.250 |
| 3. 循環型社会形成と地域活性化の拠点となる施設整備 | | 27 | 17.357 | 20.821 |
| | (1) エネルギー回収・資源回収 | 10 | 6.428 | 8.928 |
| | (2) 地球温暖化対策（カーボンニュートラル） | 10 | 6.428 | 7.142 |
| | (3) 見学者対応 | 7 | 4.500 | 4.750 |
| 4. 経済性と高度なシステムの両立を目指した施設整備 | | 27 | 17.928 | 19.678 |
| | (1) DX（デジタルトランスフォーメーション） | 10 | 6.785 | 8.214 |
| | (2) 施設配置・動線計画 | 5 | 3.035 | 3.928 |
| | (3) 環境管理 | 5 | 2.857 | 3.035 |
| | (4) 維持管理 | 7 | 5.250 | 4.500 |
| 合計 | 100点評価 | 100 | 64.821 | 75.107 |
| | 50点換算 | 50 | 32.410 | 37.553 |
| | 50点換算（小数第3位四捨五入） | 50 | 32.41 | 37.55 |

注）表中の審査項目点数並びに合計のうち100点評価及び50点換算は小数第3位までの表示により、合計と整合しない場合がある。

表 8 非価格要素審査講評

| 審査項目 | 講評 |
|------------------------------|---|
| 1. 事業計画 | |
| (1) 施工体制 | <ul style="list-style-type: none"> ・両グループともに必要な調査、体制構築、申請等、工事中の環境対策、安全・保安に留意した提案がなされていた。 ・青グループについては、工事中の粉じん対策を評価した。 |
| (2) 運営維持管理体制 | <ul style="list-style-type: none"> ・両グループともに適切な業務実施体制の構築がなされていた。 ・青グループについては、バックアップ体制の具体的な提案や遠隔操作システムの実績を評価した。 |
| (3) リスク管理 | <ul style="list-style-type: none"> ・両グループともに SPC に対する支援、セルフモニタリング方法について、提案がなされていた。 ・青グループについては、リチウムイオン電池対策がより具体的であったことを評価した。 |
| 2. 地域住民の理解と協力を確保する安全・安心な施設整備 | |
| (1) 周辺環境と調和、配慮 | <ul style="list-style-type: none"> ・両グループともに周辺環境と調和し、周辺住民にとって親しみやすい外観と、地形、地質及び周辺環境と調和のとれた外構施設を持ち、生活環境及び周辺環境の保全に最大限配慮された施設の提案がなされていた。 ・青グループについては、様々な方向及び館内との調和と配慮及び運営初期の公害対策を高く評価した。 |
| (2) 安全・安心施設での長期・安定処理 | <ul style="list-style-type: none"> ・両グループともに 35 年以上の稼働、計画年間処理量及び将来のごみ質の変動に対応した提案がなされていた。 ・赤グループについては、ごみ質変動の対応範囲の広さを評価した。 |
| (3) 地域貢献 | <ul style="list-style-type: none"> ・両グループともに地元地域への十分な思いがあり、交流を積極的に図り、地域社会の貢献に努める提案がなされていた。 ・青グループについては、地元発注金額、具体的な交流プログラム、雇用のダイバーシティを高く評価した。 |
| (4) 災害対策 | <ul style="list-style-type: none"> ・両グループともに防災対策、災害時の機能維持及び緊急時対応に係る提案がなされていた。 ・青グループについては、災害対策の具体性、バックアップ体制等を高く評価した。 |
| 3. 循環型社会形成と地域活性化の拠点となる施設整備 | |
| (1) エネルギー回収・資源回収 | <ul style="list-style-type: none"> ・両グループともにエネルギー回収率 17.5%以上（2 炉運転時）を達成しエネルギー回収率（1 炉基準ごみ時）及び売電量を最大化する提案、並びに電気・熱の効率的な供給方式の提案がなされていた。 ・両グループともに資源回収を促進し、最終処分量を低減させる提案がなされていた。 ・青グループについては、年間発電量、買取保証及び電力需要支援を高く評価した。 |
| (2) 地球温暖化対策（カーボンニュートラル） | <ul style="list-style-type: none"> ・両グループともに効果的な地球温暖化対策、CO₂削減策が提案されていた。 ・青グループについては、CO₂排出削減量を評価した。 |
| (3) 見学者対応 | <ul style="list-style-type: none"> ・両グループともに魅力的な見学プログラム、自由見学に配慮した安全面の対応・体制の提案がなされていた。 ・青グループについては、見学者スペースを広く確保しており、その他動線等きめ細かい配慮を評価した。 |

| 審査項目 | 講評 |
|----------------------------|--|
| 4. 経済性と高度なシステムの両立を目指した施設整備 | |
| (1)DX(デジタルトランスフォーメーション) | <ul style="list-style-type: none"> 両グループともに安定化、安全化、能率化及び経済性を考慮した先端技術の導入が提案されていた。 青グループについては、DX実績を高く評価した。 |
| (2)施設配置・動線計画 | <ul style="list-style-type: none"> 両グループともに巡視点検整備に適した配置計画、安全かつ効率的な配置及び動線、並びにプラットホームの安全に係る提案がなされていた。 青グループについては、一般来場者エリアの確保、計量システム等を評価した。 |
| (3)環境管理 | <ul style="list-style-type: none"> 両グループともに適切な測定管理、環境保全と施設への負荷のバランスを考慮した要監視基準値の設定、作業環境への配慮について、提案がなされていた。 |
| (4)維持管理 | <ul style="list-style-type: none"> 両グループともに効率性などを考慮した保守管理計画、補修工事・更新工事計画に係る提案がなされていた。 |

(3) 価格審査

入札参加者の立会いのもと、組合において令和5年11月21日に開札を行い、各入札価格が予定価格の範囲内であることを確認した。また、事務局は開札結果及び入札価格得点化について選定委員会に報告した。

なお、得点化の結果は表9に示すとおりである。

表9 入札価格の得点化結果(税別)

| 項目 | 配点 | 赤グループ | 青グループ | 予定価格 (低入札価格調査基準価格) |
|------------------|----|-----------------|-----------------|--------------------------------------|
| 入札価格 | - | 26,227,550,000円 | 29,005,000,000円 | 40,485,000,000円 |
| 設計・建設 事業費 | - | 17,599,205,000円 | 19,620,000,000円 | 26,504,000,000円 (19,878,000,000円) |
| 運営・維持管 理業務委託費 | - | 8,628,345,000円 | 9,385,000,000円 | 13,981,000,000円 |
| 価格審査点 | 50 | 50.00 | 45.21 | - |

(4) 総合評価

選定委員会は、非価格要素審査と価格審査の得点を合計して、表 10 に示すとおり、総合評価点を算出した。

選定委員会は、表 10 に示す総合評価結果に従い、「青グループ」(表 11 参照)を最優秀提案者として選定した。

また、選定委員会は令和 5 年 11 月 21 日に審査結果について、組合管理者に答申した。

なお、最優秀提案者として選定した青グループの入札価格は低入札価格調査基準価格を下回っていたことから、組合において、印西地区環境整備事業組合低入札価格調査制度事務処理要領に基づき、関係資料の確認、ヒアリング等により低入札価格調査が実施された。

その結果、青グループの入札価格による契約の履行が適正に実施できるものと認められた。

表 10 総合評価結果

| 項目 | 配点 | 赤グループ | 青グループ |
|----------|-----|-------|-------|
| 非価格要素審査点 | 50 | 32.41 | 37.55 |
| 価格要素審査点 | 50 | 50.00 | 45.21 |
| 総合評価点 | 100 | 82.41 | 82.76 |
| 最優秀提案者 | - | | ○ |

表 11 最優秀提案者

| 入札参加者名 | 青グループ |
|--------|---|
| 代表企業 | J F E エンジニアリング株式会社 |
| 構成員 | J F E 環境サービス株式会社 |
| 協力企業 | 株式会社奥村組 東関東支店 株式会社アジア開発興業 株式会社タイトウ 株式会社小幡工務店 |

第4章 総評

本事業は、地球温暖化防止対策に努め、将来的なカーボンニュートラル・地球環境の保全を目指す、エネルギー回収型廃棄物処理施設及びマテリアルリサイクル推進施設を整備し、適切な運営を行うことを目的とし、以下に示す基本方針を掲げている。

- ・地域住民等の理解と協力を確保する安全・安心な施設整備
- ・循環型社会形成と地域活性化の拠点となる施設整備
- ・経済性と高度なシステムの両立を目指した施設整備

選定委員会では、基本方針に基づき、落札者決定基準及び事業者の選定方法等を定め、最優秀提案者選定のための審査を実施した。

本事業の入札参加表明及び入札参加された2グループには敬意と感謝を表す。

2グループからの提案はそれぞれに本事業の有する課題に対応する創意工夫がなされ、両者とも要求水準を満たすもので内容も拮抗しておりレベルの高い魅力的な提案であった。

選定委員会は落札者決定基準に基づき、事業提案書に対して厳正なる審査を行い、事務局から報告を受けた入札価格により得点化した総合評価点が最も高かったJFEエンジニアリング株式会社を代表企業とする、青グループを最優秀提案者として選定した。

青グループの提案は、具体性がある内容であり、計画年間処理量への対応など、組合の課題に定めるもので、また地元との親しみや触れ合いなど、組合の期待する点を備えたものであると評価した。特に、周辺環境との調和、地元貢献、売電量の最大化の取組と電力の買取保証、災害時の対策やバックアップ体制、積極的なDX技術の導入に係る提案を高く評価した。

青グループは、本事業をより良いものとするため、上記の評価を受け止め、真摯な対応に努めてもらいたい。

なお、組合と青グループはもとより、本事業の立地地区を加え、良好なパートナーシップを構築するとともに、本事業の円滑な推進と事業目的の達成に向けて取り組まれることを望む。

令和5年12月27日

印西地区環境整備事業組合印西クリーンセンター
次期中間処理施設整備運営事業者選定委員会
委員長 大迫 政浩